第 154 回　第一次世界大戦前夜

1　ビスマルク体制の崩壊

・19 世紀末、ヨーロッパでは、ドイツの宰相（　　）の巧みな外交政策によって、（　　）が孤立させられていた。
→（　　）がドイツ皇帝となると、この状況が大きく変化した。

＜ビスマルク体制＞

・若き新皇帝は「　　」を展開し、強引な海外進出をはかろうとした。
→1890 年、皇帝との対立により（　　）した。
→1890 年、（　　）をかかげて、（　　）への進出をはかり、ロシアとの（　　）更新を拒否した。
→1891～94 年、ロシアはフランスとの間に（　　）を結んだ。
※これによりビスマルク体制は崩壊した。
・またアジア方面では、ロシアが南下政策を行っていた。
→1902 年、ロシアに対して、イギリスと日本は（　　）を結んだ。

宰相ビスマルク

VS.

皇帝ヴィルヘルム2世

第 140 回でもこのふたりの対立が出てきた。
国内政策では社会主義者鎮圧法で対立し、外交政策でも対立した。

シベリア鉄道建設開始

シベリア鉄道の建設は、1891 年の露仏同盟後に、フランスからの資金援助でようやく開始された。
建設を推進したのはウィッテである。

2　ドイツとイギリスの対立

・ドイツは、（　　）の建設をすすめて、（　　）・イスタンブル・（　　）を結ぶ政策をとるようになった。
※この政策を（　　）という。

・一方イギリスは（　　）を進めていたので、ドイツとの対立が激化した。
→両国は海軍の大拡張をはかり、建艦競争を繰り広げた。

・1904 年、イギリスは、フランスとの間に（　　）を結んだ。
→さらにロシアが（　　）に敗れてアジア方面から撤退し、インドへの脅威が少なくなったこともあり、1907 年（　　）を結んで和解した。
→これにより（　　）が成立した。

イギリスの戦艦ドレッドノート

イギリスとドイツは、海軍力増強のため、新しい戦艦を競争で建造していた（建艦競争）。ドレッドノートは、「弩級」という言葉の語源となった。

日露戦争の風刺画

『坂の上の雲』より日本海海戦

風刺画は、日露戦争の背景がうまく表現されている。
勝敗の行方を左右したのは、いまや伝説となった日本海海戦であった。

＜ドイツ VS イギリス＞

・これによりヨーロッパには、ドイツを中心とする（　　）と、イギリスを中心とする（　　）の対立状態が生まれた。
※この国際関係が、第一次世界大戦の基本構図である。

＜ビスマルク体制の崩壊＞